

公益社団法人 地盤工学会 関東支部

第 1 回 関東地域における地盤情報の社会的・工学的活用法の検討委員会議事録

1. 日 時：平成 23 年 9 月 6 日（火） 9：30～12：00
2. 場 所：地盤工学会 3 階会議室
3. 出席者：龍岡委員長，安田副委員長，伊東，王寺，大井，小川，長田，木村，後藤，鈴木，竹村，土倉，長瀬，畑中，平川，丸山，安原，吉野，和田 各委員，長谷川，谷本オブザーバー，清木
4. 配付資料
  - 資料 0 H23 年度第 1 回関東の地盤 DB 委員会議事次第
  - 資料 1-1 H23 委員会名簿
  - 資料 1-2 関東地盤 DB 委員会設立趣意書
  - 資料 1-3 H23 年度関東の地盤 DB 委員会準備会議事録(7 月 30 日実施)
  - 資料 1-4 書籍関東の地盤購買層(8 月 31 日現在)
  - 資料 1-5 関東の地盤増刷に伴うデータの利用の依頼
  - 資料 1-6-1 基礎工執筆検討依頼 2 月号 JGS 関東
  - 資料 1-6-2 <基礎工>平成 24 年 2 月号目次案
  - 資料 1-6-3 地盤情報データベース公開事例(関東の地盤)案
  - 資料 2-1 WG1 地盤モデルの作成・組み込み計画
  - 資料 2-2 WG2 データ収集 WG 方針
  - 資料 2-3 WG3 本文編集 WG 活動の方向性
  - 資料 2-4 WG4 ソフトウェア WG メモ
  - 資料 3-1 地震時における地盤災害の課題と対策 2011 年東日本大震災の教訓と提言 抜粋
  - 資料 3-2 関東地盤 DB 委員会話題提供用資料(木村委員)
  - 資料 3-3 地盤工学会における地盤情報 DB 情報と震災との関係(話題提供：安田副委員長)
5. 回覧資料
  - 資料 1 書籍 関東の地盤 地盤情報データベース付 (2010 年度版) 第 1 刷
  - 資料 2 地震時における地盤災害の課題と対策 2011 年東日本大震災の教訓と提言(第一次)
6. 議事
  - (1) 委員長あいさつ
    - ・龍岡委員長からこれまでの委員会活動の背景から，本委員会の目的が説明された。
    - ・第 2 期の委員会(「関東地域における地盤情報データベースの運用と活用検討委員会」)の活動の成果として，書籍関東の地盤(2010 年度版)が出版されたが，地盤情報の収集が不十分である点を指摘された。
    - ・書籍関東の地盤(2010 年度版)(第 1 版)の不十分点，問題点をなくし，震災についての記載，地盤モデルに関する記述を充実させる。これを第 2 版として，2013 年 3 月 11 日の出版を目標とする。
  - (2) 委員自己紹介
    - ・名簿(資料 1-1)に従って，各委員の自己紹介が行われた。名簿に都県が欄外に記載されている委員は，

各都県の担当委員であることが補足された。

(3) 東日本大震災による地盤災害に対する学会の方針，および他機関の動向

- ・ 龍岡委員長より，(資料 3-1)に従って，「地震時における地盤災害の課題と対策 2011 年東日本大震災の教訓と提言」の背景が説明された。
- ・ 木村委員から，産総研における地盤モデルの構築・公開状況が説明された。基盤層からの地盤モデルの作成と，自治体からのデータの収集状況が説明された(資料 3-2)。この地盤モデルの内容は，関東の地盤(2013 年度版)に含むようにする。
- ・ 大井委員から，振興調整費による地盤モデルの構築・公開状況，各自治体の地盤情報の公開状況が説明された。強震解析を行うために，地震基盤から浅部地層の地盤モデルとともに，浅部地層から地表面までの地層確認の重要性が強調された(資料 2-1)。この作業で追加することできた各自治体のデジタル化した地盤情報は，各自治体に提供を依頼して，関東の地盤(2013 年度版)に含むようにする。
- ・ 安田副委員長から，浦安周辺の液状化と地層層序の関連，解析結果による微地形との関連を明らかにする試みが説明された。書籍「関東の地盤」(2010 年度版)では，千葉県東京湾周辺の重要な地盤情報が収められていない，地盤情報の入手ルートを工夫することが示唆された。第 1 版の関東の地盤 DB 作成時，関東地域の県や政令指定都市などの自治体にデータ提供を依頼したが，県から各市へデータ提供を依頼する重要性が指摘された(資料 3-3)。

(4) 委員会の実施体制について

(i) 第 2 期の委員会から，今期委員会までの説明

- ・ (資料 1-2)に従って，本委員会の活動の趣旨を説明した。
- ・ 7 月 30 日開催の準備会の議事録(資料 1-3)を確認し，準備会に参加した委員の会務を幹事とすることを確認した。また，この他の委員からも幹事を務めて頂ける方を募ることになった。
- ・ WG1(地盤モデル WG)，WG2(データ収集 WG)，WG3(本文編集 WG)，WG4(ソフトウェア WG)の四つの WG で活動を行うことが確認された。
- ・ 関東の地盤の購買層(資料 1-4)について，資料をもとに説明した。震災前(第 1 刷)，後(第 2 刷)で，建設コンサルタントの購買率が少し高い傾向がある。(補足：第 2 刷は，8 月 31 日現在で，学会販売用 30 冊，丸善販売用 61 冊の在庫がある。)
- ・ 震災後，関東の地盤の増刷分について，データ機関に説明書類を送ったことを説明した(資料 1-5)。委員会内で説明書類の誤植について，指摘を受けたので，清木が修正し，事務局から再送した。
- ・ 2012 年「基礎工 2 月号」の地盤情報データベースの特集号についての執筆依頼を受けた原稿をもとにして，書籍関東の地盤の付録である地盤情報 DB(データベース)の概要を説明した(資料 1-6-1～3)。

(ii) 今期委員会の活動について (説明および自由意見)

- ・ 書籍関東の地盤第 2 版の出版を 2013 年 3 月 11 日とすることが確認された。

WG1：地盤モデル WG(安田副委員長，大井委員)(資料 2-1)

- ・ WG 活動の目的は，一般市民に受け入れられる地盤モデルの構築である。

- ・地盤モデルの作成の目的およびモデル化の対象範囲が防災科研，産総研，各自治体で異なる。
- ・事例
  - ・自治体からのデータをもとに，関東全域のモデル化の動きが産総研，防災科研である。
  - ・震災後，東京都，群馬県でも地盤モデル作成の動きがある。
  - ・千葉県などは 250m メッシュで地質層序に従ったモデル化が行われる可能性が紹介された。
  - ・防災科研は，深部と浅部のモデル化を行い，強震の性状の把握を行う。被害想定は自治体毎に実施をお願いしている仕組みが紹介された。
  - ・兵庫県南部地震以降の被害想定が，東日本大震災との関連もあり，茨城県で行われる可能性がある。
- ・以上の事例を参考に，地盤モデルとして収録する内容を検討する。なお，各機関の地盤モデルは可能な限り，第 2 版の DB に取り入れる。
- ・地盤工学会，防災科研，産総研の地盤モデル構築の手法・思想の違いを整理し，書籍には本文作成 WG と連携し，説明の文章を入れる。

**WG2：データ収集 WG(長瀬委員，土倉委員)(資料 2-2)**

- ・WG 活動の目的は，ボーリングデータの収集である。
- ・これまでデータの提供を依頼した自治体を主に，学術的に地盤モデル作成を主目的にデータ提供を依頼する。
- ・地盤モデル構築の観点から，H24 年 3 月までに各機関のデータ提供許諾が必要。また，H24 年 9 月からデータ取得・分析を行い，書籍本文の執筆を行うスケジュールを提案。
- ・各都県代表者を通して，県，市のデータの収集を行う。紙媒体の資料の電子化については，委員会予算を調整して対応する。また，他 WG と連携して，データ取得にあたる。
- ・税金で取得したデータは DB 作成のために出せない，ボーリングデータが示す場所を特定できないようにするなど条件があることが予めわかっているので，各自治体の対応に温度差があることを前提でデータの提供を依頼する。
- ・自治体にデータを提供して頂く場合，関東の地盤を寄贈する。

**WG3：本文編集 WG(後藤委員，木村委員，清木)(資料 2-3)**

- ・WG 活動の目的は，書籍関東の地盤第 2 版を予定どおり出版するために，執筆，編集を他 WG と連携しながら実施することである。
- ・第 1 版の出版と同じ思想で，関東の各都県で地盤モデルを意識した執筆内容を，本年 12 月までに調整する。これ以降の予定については，他 WG と調整する。
- ・各都県の執筆内容について，その執筆の内容，項目を事前にしっかりと揃える。また，地盤モデルをもとにした地盤縦断図，ボーリング柱状図を本文中に掲載するように努力する。関東の地盤特性について，記載する場合，第四紀の地盤に限定するなどの工夫を行う。
- ・地盤の縦断図，柱状図などの入手が難しい場合，「全国 77 都市の地盤と災害ハンドブック」に収められている都市からの引用を検討する。
- ・書籍の内容は，地盤モデル，地盤モデルの解説，地盤モデルの事例，東日本大震災など盛りだくさんとなることは望ましいが，発行時期も含め，各 WG で対応可能な内容を検討し，幹事会で調整する。

- ・東日本大震災は、地盤工学ジャーナルの原稿や S&F の原稿を参考にすることが提案された。

WG4 : ソフトウェア WG(王寺委員, 丸山委員)(資料 2-4)

- ・WG の活動目的は、地盤情報を表示する無償のソフト、解析ソフトを調査、活用事例の整理、DVD ボーリング DB の維持とする。
- ・地盤情報を表示するソフトはすべて無償を検討するわけにもゆかず、DVD ボーリング DB を維持するためにも活動予算を確保する。
- ・書籍関東の地盤の出版は 2013 年 3 月を目標とするが、その後の 1 年は、これらの得られた資料をもとにした研究活動を行うことを説明した。

(5) 今後のスケジュール確認

- ・9 月 12 日締切で、各委員に参加を希望する WG を第 3 希望まで清木幹事長に回答する。
- ・全体委員会は、年度内にあと 1 回とし、幹事会、WG で連携をとりながら研究活動をすすめる。
- ・次回幹事会 9/30 9:30~12:00 地盤工学会地下 A 会議室  
WG の構成、予算、書籍出版までのスケジュールを確認・調整する。各 WG のリーダーに、WG 活動の方向性を再度確認する。

(6) その他

なし

以上